



世界の農業・農政

メキシコの農産品貿易 —北米自由貿易協定 (NAFTA) の下で輸出拡大—

国際領域 行政専門員 宮石 幸雄

NAFTAは米国、カナダ、メキシコの3か国の協定で1994年1月に発効しました。当時、発展途上国と先進国の間の初の自由貿易協定と言われ注目されました。以降、メキシコが自由貿易を追求する方針は2000年に与野党逆転の政権交代でも変わりませんでした。日墨EPA（2004年署名）もその一環で締結されました。現在、12協定46か国と自由貿易協定が発効しています。このように自由貿易を進めたメキシコの農産物貿易の変化やその背景を見てみます。

1. 農産品輸出は急増し収支も黒字化

NAFTA発効以来、農業生産は一貫して増加して輸出も拡大しました。その輸出額は2000年の83億ドルから2018年の348億ドル（約4兆円）へと18年間で4倍以上に拡大しています。また、輸入も増大し2014年まで収支は赤字基調でしたが、直近では輸入を上回る輸出の増加で2015年に黒字に転じ、その後黒字額は年々増加し、2018年には76億ドルまで拡大しています（第1表）。

2. 主な輸出農産品

(1) 果実、野菜、園芸作物

輸出は21世紀になり急増しています。輸出額上位品目の中で、2018年の輸出額が20億ドルを超えた品目は、アボカド、イチゴ類、トマトでこれらの合計は70億ドルを超えます。ライム、ナッツや、ブロッコリー、キュウリ、タマネギなどの野菜も輸出急増しています。トマトは、伝統的な産品の一つで従来より主要な輸出品目でした。対照的に、アボカド、イチゴ類、青トウガラシの輸出は、2000年頃までは少なく、21世紀になって急激に増大しています。15年間で、アボカド24倍、イチゴ類43倍、青トウガラシ52倍と文字どおり桁違いの増加を示しています。伝統的輸出品であるトマト（5.2倍）も大きく伸びました（第2表）。

第1表 農産品（加工食品含む）の貿易

（単位：百万 US ドル）

西暦	1995	2000	2005	2010	2015	2018
輸出	6,266	8,329	11,731	17,617	26,573	34,779
輸入	4,856	8,941	13,919	20,302	24,584	27,139
収支	1,410	-612	-2,188	-2,685	1,989	7,640

資料：DataBase Global Trade Atlas より筆者作成。

(2) 畜産関係

畜産関係はどうでしょう。2003年から15年間で、牛肉が4.2倍、豚肉が6.8倍と、野菜などの主要品目に匹敵する輸出額の増加を示していますが、同時に輸入も増大しており畜産関係品目の収支は赤字基調が続いています。牛肉、豚肉、鶏肉など肉類全体の国内生産量は、着実に増加していますが、人口増大、経済成長に伴う旺盛な国内需要に国内生産が追いつかず、輸入超過が続いているのです。ただ、牛肉は、2015年に純輸出国に転じその後純輸出力が拡大しています。2018年で、豚肉が75万トン、鶏肉が90万トンの輸入超過、牛肉は8万トンの純輸出となっています。

(3) アルコール類

加工品としてのアルコール類も重要な位置にあります。2018年の輸出額はビールが44.9億ドル、竜舌蘭から造られる蒸留酒であるテキーラ等が16.5億ドルで、合わせて61億ドル（約7000億円）です。NAFTA発効前の1993年はビール2.3億ドル、テキーラ等1.2億ドルでしかなかったものが、25年間で17倍になりました。テキーラもメキシコブランドのビールもメキシコ料理に欠かせないものです。

第2表 輸出額上位品目

（単位：百万 US ドル）

区分	品目	2003	2008	2013	2018	2018/2003
果実、野菜、 園芸作物	アボカド	110	609	1,269	2,625	23.9
	イチゴ類 ^(注1)	53	361	945	2,282	43.1
	トマト	399	675	1,158	2,080	5.2
	青トウガラシ	23	82	288	1,222	52.4
	ナッツ ^(注2)	76	94	255	751	9.9
	ブロッコリー	70	249	350	719	10.3
	ライム	61	157	286	552	9.0
	キュウリ	45	92	183	538	12.1
	タマネギ	20	25	197	431	21.6
	マンゴ	70	96	230	421	6.0
畜産	アスパラ	6	29	144	398	72.4
	牛肉 ^(注3)	494	455	1,142	2,070	4.2
アルコール類	豚肉	80	318	443	547	6.8
	ビール	1,210	1,791	2,211	4,491	3.7
	テキーラ	524	709	1,021	1,646	3.1

資料：Atlas Agroalimentario 2019 ほかより、筆者作成。

注(1) イチゴ、ブルーベリー、ラズベリー、ブラックベリーの4品目。

(2) クルミ、マカデミアンナッツ、アーモンドなどナッツ類。

(3) 牛肉（冷凍、冷蔵）、生きた牛。

(4) マンゴ2003年欄は2005年の輸出額。

3. 輸入ではトウモロコシが増加

一方、輸入が増大しているものもあります。トウモロコシ（黄トウモロコシ）や小麦は輸入超過が続いています。耕種農業では近隣の米国、カナダそして南米のブラジル、アルゼンチンなどに比べメキシコの生産性は劣ります。1994年頃には、NAFTAにより関税が撤廃されると「メキシコのトウモロコシ生産は壊滅し農村は荒廃する」と言われたほどです。確かにトウモロコシの輸入は588万トン（1996年）から約3倍の1710万トン、33億ドル（2018年）と拡大しました。その99%が米国产で、米国にとって最大の輸出相手国となっています。一方、生産も2,717万トン（2018年）あり、1995年頃から約50%の増産になっています。輸入が増えたのは飼料用の黄トウモロコシであって、食用の白トウモロコシは80%以上の高い自給率を維持しています。25年前に言われたような農村崩壊は起こりませんでした。

4. 輸出が急増した背景

輸出がこれほど短期間に増えた理由はNAFTAなどの自由貿易の進展がベースにあり、関税撤廃に加え資本・人の移動が自由化した影響が大きいと思われます。

輸出が急増した品目の背景には、積極的かつ戦略的な農業投資による輸出を目指した生産拡大があると思われます。例えば、イチゴ類に含まれる、ブルーベリー及びラズベリーは、2000年頃まで、国内需要がほとんど無く生産も僅かでしたが、生産の増加と同時に輸出も増大しています。トマトは、国内需要も多く生産も比較的広く分布していました。最近10年間で生産は1.6倍に増えましたが輸出は更に大きく2.9倍に増加しています。上位3州の生産シェアは2011年の22%から2018年には44%になり、生産増加が特定地域（州）に集中しています。地域限定の開発（投資）が推察されます（谷，2012）。

牛肉の生産については、近年、垂直統合も進み米国のようなフィードロット方式の大規模経営が増大しています。主に米国からの輸入に依存する飼料は米国よりコスト高ですが、安い人件費等でカバーし、牛肉は順調に生産を伸ばしています（ALIC，2015）。ちなみに、豚肉の輸出は増加していますが、日本向けが主で米国からそれ以上に輸入し収支は輸入超過になっています。鶏肉も、健康志向などの傾向もあって国内需要が増大し輸入超過です。

アボカド、青トウガラシなどの輸出急増の背景としては、メキシコ料理の世界的ブームが考えられます。アボカドや青トウガラシは伝統的なメキシコ料理に欠かせないものです。メキシコ伝統料理はユネスコ無形文化遺産に2010年登録されました。これ以

降メキシコ料理の世界的なブームと輸出拡大をもたらしました。メキシコ料理ブームは、ビールやテキーラの輸出も後押ししているかも知れません。

加えて、米国という大消費地に隣接していることも、農産品の輸出の拡大の大きな要因と思われます。メキシコでは高速道路などのインフラを整え、メキシコ北部地域から生鮮野菜なども容易に輸出できるようになりました。農産品の輸出の76%が米国向けです。

5. NAFTAからUSMCAへ

2018年11月、NAFTAに代わる米墨加協定（USMCA）が調印されました。名称は自由貿易協定（FTA）から単なる協定（Agreement）になりましたが、農業部門での関税の無い自由貿易は維持されました。自由貿易体制の維持は、メキシコのみならず米国の諸農業団体からも強く要望されており、農業部門の自由な貿易の是非が与野党対立や政争の材料にはなりませんでした。

今後に向けては、次のような論点が考えられます。

ロペス・オブラドール大統領は、2018年の選挙戦でNAFTA支持を明言し、USMCAもいち早く批准しました。ただ、同大統領は左翼的と言われ、演説などでも常々新自由主義を批判しています。現在の自由貿易体制は新自由主義の政策を通じて固められてきたものだけに、大統領の方針に変化がないか注目されるところです。

次に貿易不均衡の問題です。メキシコとの間での米国の貿易収支の赤字額は、中国に次いで2位です。米国トランプ大統領はこれを問題視し、追加関税や国境封鎖にまで言及しています。自動車関連に加え農業部門にまで及ぶ貿易不均衡に米国がどのような対応をするのか不透明なものがあります。

最後に、メキシコは米国以外の各国と貿易関係を深められるでしょうか。飼料穀物の輸入先については米国一辺倒脱却を目指しブラジルなどからも輸入を始めています。EU、中南米との関係強化にも努力しています。現在12の自由貿易協定（FTA、日本とのEPAを含む）が発効し、46か国と自由貿易の関係にあります。複雑な国際情勢の中でのメキシコの今後の対応が注目されます。

【参考文献】

- 谷洋之（2012）「メキシコにおけるトマト生産」『開発学研究』22（3）：9-16.
- ALIC（2015）「メキシコの牛肉生産および輸出動向」『畜産の情報』2015年7月号.
- 農林水産政策研究所（2018）プロジェクト研究「主要国農業戦略横断・総合」研究資料 第11号 第4章
- 農林水産政策研究所（2019）プロジェクト研究「主要国農業戦略横断・総合」研究資料 第12号 第1章